

はの消費者便利



2014年1月15日発行
事務局 090-5324-6412 川野

原発事故を体験した 井戸川前町長のお話を聞いて

十一月十日飯能中央地区行政センターにて、福島第一原発から3.8キロの双葉町の前町長、井戸川克隆さんのお話を聞く会が開かれました。

（主催：原発とめよう飯能、共催：飯能市消費者団体連絡会）
市内にお住いのM・Hさんに感想を書いていただきました。

事故前、井戸川さんが「やがてあなた方は会社をつぶすことになるですよ」と警告を出すほど、毎日のようにトラブルの報告続きだった原発。貞観津波の情報も知っていたのに、隠していた、国や東電。事故が起きて、偽証を重ねた。そのうえで被ばくさせられた方々の憤りがずしんと伝わってきた。

「これは、事故ではない、事件だ。」と井戸川さんはおっしゃっていたが、この事件の不思議なところは、犠牲者がいるのに、加害者がいない。

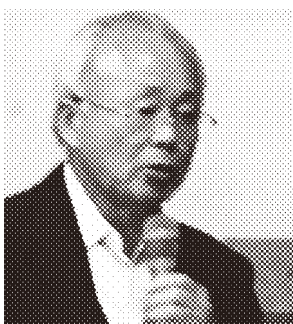
そもそも、福島原発はなぜ建ったのか？？都会での電力消費を賄うためだ。（名目上は。双葉町の方々は「都会の電力を補っているのは、双葉町にある原発だ。」と誇りに思っていたそう。変なプライド」と井戸川さんはおっしゃったが）

被ばくしながら働き、そして、事故が起こり、故郷を追われた土地が汚染され、故郷を追われた人々がいて、未だに事故を収束させるために、過酷な状況下で働いている作業員の多くの方がいる。それなのに、東電は責任を問われず、こんな状況下でも原発を輸出しようとしている国……。そして無関心な人々。



未だに、「原発を再稼働させないと、電力が足りなくなる。」「自然エネルギーで賄えるまでは、原発を動かさないといけない。」という声を聞く。しかし、現在、東京電力管内で原発は一基も稼働していないが、電力は足りている。「賄おうと思えば賄えたはずで、賄おうとしなかっただけです。賄えないように世論を操作してきただけです。」と井戸川さんはおっしゃった。そのとおりである。

知れば知るほど、変なところがたくさんある原発。再稼働する意味は全くないし、原発事故の収束には何世代もかかるというのに、もう世の中は「東京オリンピック」に浮かれています。国民の多くが関心をもって、「おかしいことはおかしい。」と声を上げなければ、第二、第三の双葉町が生まれるだろう。と感じた。



前双葉町長 井戸川克隆さん

また、双葉町程ではないけれど、ここ飯能もしっかりと汚染され、実際に飯能の土には、事故前の何千倍もの放射性物質が存在し、私たちは日々、被ばくしている。隣の市に住む知り合いの女兒が、白血病を発症した。放射能の影響はじわじわと出てきている。私たちも被害者であり、そして加害者である。

放射能の影響で、「白内障の症状や、喉に嚢胞がある」とおっしゃっている体調の中、命を懸けて講演活動を行っている、井戸川さん。できるだけ多くの方に、直接、お話を聞いてもらいたいと思った。

正直、今回の原稿を書くのは、とても気が重かった。そして、やはり私の力では、講演の内容や井戸川さんの想いを伝えきれなかった。是非、講演会の録画を見ていただきたい。

「前・双葉町長 井戸川克隆さんのお話：2013.11.10. 飯能」という題で、youtubeにアップしである。

できるだけ多くの方、一人ひとりに、自分の問題として、考えていただきたいと思います。

飯能市在住 M・H

消費者って たいへん——その3

飯能市消団連・代表
川野安紀子



私 たち消費者は色々なゴミを出しながら生活しています。ゴミを少しでも減らすために、分別を徹底し時にはハサミやカッター・ペンチを持ち出して悪戦苦闘、プラスチック類は洗って乾かし、生ゴミは堆肥化し、エコバック持参で買い物。買う物もゴミになることを考えてより自然に還りやすい物を選びフーッ！

れています。

飯能市のプラスチックゴミは狭山市にある株式会社「リステム」で、手作業で再利用できる物とできないものに分別され、再利用できないものはこれも寄居町に運ばれます。

先日、寄居町にある「埼玉県環境整備センター」の埋立処分場と「彩の国循環工場」見学会に参加してきました。ここには生ゴミなどを堆肥化する工場、蛍光管を資源化する工場、など8つのゴミを資源化する工場があります。飯能から運ばれた再利用できないプラスチックの行き先「オリックス資源循環工場」では、すべてが超高温の炉でガス化されて分解され資源化する魔法のようなシステムと説明を受けました。じゃ、分別にあんなに苦労しなくても良かったの？100%資源になるならゴミの減量なんてしなくてもいいの？排気ガスは大丈夫なのかしら？

あ あーそれなのに、どれだけ気を使っているにも資源として再利用できないものがどうしても出てしまいます。プラスチックと紙や布が貼り合わされているもの。資源にできない感熱紙や紙容器類（たとえば紙のリサイクルマークが付いていたとしても）。そして不燃ごみとして出されたものは、細かく砕かれ、鉄とアルミは資源として回収されますが、ふるいにかけて残ったものは焼却炉へ。下に落ちたものは不燃物として埼玉県寄居町に埋め立て処分さ

地元で大気の調査をしている方にかがうと、「工場の敷地内とその周辺では、彩の国循環工場が稼働してからダイオキシンや水銀などの重金属類が他の地域の焼却炉周辺に比べても高い数値で出ています」「化学物質に対する感度は人によって大きな開きがあります。敷地に接してスポーツ施設もあり毎日ジョギングされている方もいらつしやいますが、見学されて具合の悪くなる方もいます。お帰りになったら風呂に入って髪を洗うと良いですよ。」とのこと。

ゴ ミは燃やすと、どうしてもダイオキシンが発生し重金属類もフィルターすり抜けた物は大气に出てしまいます。やっぱり、がんばって少しでもゴミを減らさないかね。まずは買う時にゴミになった時のことを考えて、買わなくてすむものは買わないことからでしょう。

1月29日 下記のように「埼玉県環境整備センター」の敷地内と周辺で松葉を使って大気の調査を続けている方に来ていただいてお話をうかがいます。是非ご参加ください。

講演会

「ゴミを燃やすという事は・・・」

加藤晶子さん（彩の国資源循環工場と環境を考えるひろば）

2014 **1/29** 水 13:30 ~ 15:30

富士見行政センター第2学習室

■主催 飯能市消費者団体連絡会 ●参加費 無料

●保育の申込み 090-5824-6412 川野、メ切1月22日



松葉がつかえる
大気の汚染

間もなく飯能市クリーンセンターの建て替え工事が始まります。



プラスチックの分別収集など市民と担当職員の努力で、焼却炉に入るゴミの量は減少しました。焼却炉は、人口が2倍になることを想定していて過大だった80トン炉2基から40トン炉2基へ2分の1の規模になりますが…。

寄居町にある県営の最終処分場には、埋立処分地のほか「彩の国資源循環工場」があり、飯能市のゴミも運ばれています。「彩の国資源循環工場」ができるまでが汚染されるのではないかと心配した寄居町や周辺の人は、工場が本格稼働する2年前の2004年から、松葉を採取し、松葉が大气と一緒に取り込んだ物質を分析するという方法で、大気の調査をしています。

福祉と消費生活

吉岡かおる



みなさんは福祉と消費生活を関連のあるものと捉え、この国の福祉制度のあり方について考えたことはありますか？「福祉とは困っている人のためのもの」そんなイメージがあるせいか、日頃考えることはしていないのではないのでしょうか？

◆ 平成12年の介護保険制度導入以降、介護福祉は契約制度となりました。障害者福祉制度も平成15年度以降やはり契約制度となりましたが、保険制度ではなく、福祉制度となっています。どちらも原則1割負担の制度で、一体どこが違うのかと言えば、掛け金があるかないかということです。18年度に自立支援法が施行されたときには、介護保険との一元化を前提としていましたが、障害者団

体側の「人権の尊重の観点から、保険とは相容れない」という見解で話は物別れに終わりました。介護保険は元来、家族の負担を減らすという視点が軸にあり、「本人の人権」という視点からの議論が形成しにくかったのかも知れません。

◆ 介護保険には要介護5～1要支援2・1と、本人の状態に合わせたサービスがあります。困ったからといってすぐには使えず、1～2ヶ月間いろいろ聞き取りがあり、認定を受けてから、利用することになります。このうち、要支援については、

国から市町村に裁量を委ねることになりました。「子どもと年寄りのことはお前に任せろ」という夫よろしく国は市町村に責任と国民の不満を押し付けてしまいました。でもこのことは、あまり問題視されているようには見受けられません。介護というものを「いつか使うかも知れない商品」として国民が品定めをしていないからです。自分がまさか介護されなくてはならない立場になるとはあまり考えたくはないからかも知れませ

ん。でも、みなさんは自動車保険に加入するとき、補償内容に全く頓着せずに契約するでしょうか？事故なんて起こしたくないけれど、契約に際してはどのくらいの補償があるのかちゃんと確認したいですね。ところが、介護保険に関しては市町村の健康保険料に加算され、どんなサービスが受けられるのかの説明もなく支払い続けることとなります。国や市町村に説明の義務はないのです。加入は契約ではなく義務で、実際にサービスを受ける時に事業者との間で契約を交わします。

◆ ◆ ◆ 自分が介護を受けるときになつて補償内容にクレームをつけてもあとのまつりです。そうならないためには、自分はどうな介護を受けたいのかを考え、飯能市では何が出来たのかをきちんと調べて、市に提案していくことがとめられているのではないのでしょうか。4月以降、消費税率が段階的に引き上げられていきますが、当初の目的であった社会保障の充実に増税分が充てられるように、しっかりと監視していくことも必要です。

■連続上映会の報告■

飯能市消団連では、毎年夏に戦争や平和をテーマに上映会を行ってきました。2013年はテーマを広げて4本の短編映画の連続上映会を実施しました。最初の2本は原発に関するものでした。

● 3本目は「赤とんぼがいな秋」今世界中でミツバチ大量死の原因として大問題となっているネオニコチノイド農薬に関する映画です。

先日ニュースで、EUで食品の安全性などを評価する欧州食品安全機関は、ネオニコチノイド系農薬2種が「低濃度でも人間の神経の発達と機能に悪影響を与える可能性がある」との結論を出したと伝えていました。

野鳥の観察を長年行っている友人から「鳥が急激に減っている」という話を聞きました。虫や鳥など小さなもの達から影響が顕在化してきているように思います。日本でも、一日も早く詳しい調査や使用規制を行ってほしいです。

● 4本目の映画は「アフガニスタン千ばつの大地に用水路を拓く」

戦乱と千ばつのアフガニスタンで、無謀とも思える土木工事に挑んだ日本人医師・中村哲さん。2003年から7年をかけた全長25.5キロの用水路を完工、3000ヘクタールの農地を甦えさせました。

私は30数年前、ソビエトの侵攻が始まる直前のアフガニスタンを旅しました。その時見たアフガニスタンは、見渡す限り石くれだらけの荒地の国：そんな厳しい自然環境の中でぎりぎりの命と向き合う人々の姿でした。その後、彼の国の人々に降りかかった過酷で理不尽な仕打ちはご存じの通りです。しかしその中を必死に生き抜こうとする彼の地の人々に寄り添い続ける中村さんの尊い姿は、人間として生きるとは、どのようなことなのかを考えさせられる感動のドキュメンタリーでした。

（早瀬）



新 日本婦人の会（新婦人）

は1962年に、平和を願う日本の女性たちの思いを集めて、平塚らいてうさん・いわさきちひろさん等32名の著名な女性の呼びかけの下に誕生しました。飯能支部はその4年後の1966年5月に地域班2つと職場班1つの3つの班が集まり創立されました。あらゆる階層、年代の女性の要求を以下の5つにまとめ、その実現のため日々活動しています。

●核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもります。

●憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。

●生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせします。

●日本の独立と民主主義、女性の解放をかちとります。

●世界の女性と手をつなぎ永遠の平和をうちたてます。

女

性の視点で編集されている「新婦人しんぶん」（編集部はすべて女性）は毎週発行され、全国の会員の活動を紹介する他、世の中のできごとをわ

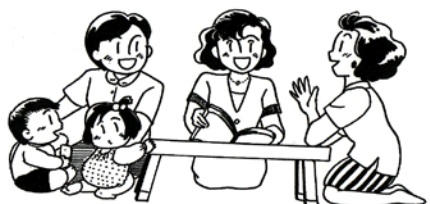
かりやすく伝え、生活の知恵、文化の発信源としても会員・読者（男性の読者もいます）をつないでいます。

5つの目的の一つである核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもる活動として、15年間他団体とともに核兵器廃絶の署名活動に取り組んできました。

シリーズ～飯能市消団連・団体会員紹介

新日本婦人の会

飯能支部の紹介



会として1,000万筆以上を集め、その活動が評価され、国連NGO団体として承認されてからは国際的にも活動の場を広げています。

飯

能支部では、働く女性が安心して子どもを預けて働き続けられるようにと、保育

園や学童保育所を作る運動をしてきました。また、生まれてきた子どもたちが貧富の差なく育つようにと、乳幼児・子どもの医療費の無料化の運動はずっと粘り強く取り組んでいます。

大気汚染が問題になってからは定点で二酸化窒素の測定をしたり、毎年5月10日に物価調べをしたりと全国の会員とともに長年取り組んできました。その他様々なことに女性ならではの視点で子育て、生活、地域をウォッチングし、要求をまとめ市と交渉もし、安心して住み続けることのできる飯能市になるようにとがんばっています。

女性が、仕事や子育て、老後も生き生きと生活し続けられるように要求があればサークルを作り、地域ごとに班をつくり、「平和でなければ気兼ねなくおしゃべりもできないよね」と、会費制で日々活動しています。

飯能の消団連には1995年に加わり、活動をつなぐ担当を毎年一名出しています。

野崎道子

～飯能から考えよう 食と農の安全を守るために～

映画とトークセッション

暴走する生命

Life Running out of Control

監督：ペルトラム・フェアハーク他/ドイツ



▲半分の時間で6倍に成長した遺伝子組み換え鮭
フライブルク国際環境映画祭 "金山猫賞" など
数々の国際映画賞を受賞した話題作

除草剤にも枯れない菜種、害虫を殺す綿花、猛スピードで成長する鮭、等々：遺伝子組み換えの実態とそれが生態系や社会に与える問題を問い、世界各地に取材したドキュメンタリー映画。

生命を支える食と農。その安全に不安を感じる今。世界で何が起きているのかを知り、何ができるかを地域から考えましょう。

2014 3/22 土 13:30 ~ 16:30

飯能市市民会館小ホール

- 13:30 ~ 受付♪ロビーにてマーケット
(固定種の野菜や種子、書籍、石鹸、etc.)
- 14:15 ~ 映画『暴走する生命』上映 60分
- 15:15 ~ トークセッション
(パネラー：固定種を栽培する農家や「地産地消」を進める飯能市農林課の方他)

【参加費】前売り 500円 当日 600円

【予約・お問合せ】TEL.090-5324-6412 川野
042-973-5502 小林・大木

★保育 300円・要予約・〆切 3月15日

主催：飯能市消費者団体連絡会

▲映画に登場する遺伝子組み換え鮭（GM鮭）の販売許可が申請され、昨年11月、カナダ政府が卵の商業生産を一部認可した。
GM鮭が切り身となって、日本のスーパーや回転寿司に並ぶ日が近い!!?